2024年度
修学院フォーラム
「エネルギーを考える」
第12回

〈主催〉公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー　関西セミナーハウス活動センター

避けられない原子力災害と、捨てられない使用済み核燃料：必要を満たして余りある太陽の光と風の力

日時

2025年3月30日(日)16:00
～31日(月)15:30

会場

関西セミナーハウス

2011年の福島原発事故は、地震や津波が甚大な原発事故を招き、多くの住民の生命を危機に晒すことを示しました。最近の能登半島地震は、いつでも原発事故が起こり得、一旦起きたら逃げ場が無いことを示しました。全国の原発から生み出された使用済み核燃料は処理できず、住民の命を脅かすまでに溜まり続けています。それでもなお政府はなぜ、原発を再稼働させ、新設までしようとするのでしょうか？

地球の上に隈なく注がれる太陽の光と、風の力は、適当な受け皿さえ準備すれば、どこでも電気に変えることができ、適当な蓄電池さえ準備すれば、いつでも必要な時に電気を使うことができます。それでもなぜ私たちは、安全で豊富なこれらの恵みを生かそうとしないのでしょうか？

発題１「いのちを危うくする原子力発電」

アイリーン　美緒子　スミス　（環境NGOグリーン・アクション代表 ）

日本は世界唯一、地震国でありながら原発が全国に行き渡る国です。14年前の東京電力福島第一原子力発電所事故の災害から私たちは何を学び、どのようにその教訓を活かせるのか？大事故が起これば、無数の避難元と避難先の市町の人々、医療と福祉施設の利用者が被害を受けます。福島の当時の子どもたちは今、受けた被害に対し先頭に立ち闘っています。原発の稼動が進むと核廃棄物問題はどうなるのか？事故が起これば被害を受ける人々にも廃棄物を残された次世代にも決定権はありません。原発の再稼働と新設を決定するのは政府、電力会社と立地自治体の首長だからです。なぜ温暖化対策には原発の利用はふさわしくないのか。原発に反対の市民は今どのような行動を取っているか。日本の専門家と司法は何をしているか。様々な情報と問題点を取り上げ、分析し、動かない日本の謎を読み解き、どのような解決への糸口があるかを一緒に検討しましょう。

発題２「いのちを育む太陽の光と風の力」

牛山　泉（足利大学顧問、名誉教授）

世界は温暖化から沸騰化に転じ、世界各地で気象災害が激化し、さらに各地で戦争が起こりエネルギーも食料も先の見通しが立たない状況です。

初めから原発を導入しなかったデンマーク、2023年4月に原発を全部止めた工業国ドイツ、これらの国は、原発がなくても、風力発電や太陽光発電など再生可能エネルギーだけでやっていけることを実証しつつあります。デンマークでは風力発電で電力需要の54％を賄っており、酪農の国なのでバイオマスが15％になります。

国際エネルギー機関によれば、日本の洋上風力発電のポテンシャルは国内の電力需要の9倍もあるといいます。これに、太陽光、陸上風力、バイオマス、小水力、地熱も加わり、日本は再生可能エネルギー王国なのです。「知るは力なり」です、後世に悔いを残す原発はなくても、日本はやっていけるのです。さあ、再エネ100％のモデル国実現を目指して前進してまいりましょう。

《参加費》　一般 16,000円、学生 5,000円（1泊3食込、京都市宿泊税200円込）〔個室の場合、差額1,000円〕
《申込み》　3月25日(火)までに、裏面の参加申込書の項目をWEBサイトフォーム、電子メール、電話、Faxで。

アイリーン・美緒子・スミス　あいりーん　みおこ　すみす

（環境 NGO グリーン・アクション代表、有限会社アイリーン・アーカイブ社長、一般社団法人水俣・写真家の眼　理事、環境ジャーナリスト）

1950 年生まれ。1968 年スタンフォード大学入学、1970 年同大学中退。
1971 年ユージンと結婚、1971～1974 年水俣病取材のため水俣に滞在。
1975 年 写真集「MINAMATA」英語版出版（ユージン・スミスと共著）。
1978 年 日本テレビドキュメンタリー「子供たちは七つの海を越えた～サンダースホーム　母と子の記録」（芸術祭大賞受賞）制作参加。
1980 年写真集「MINAMATA」日本語版「水俣」出版（W. ユージン・スミスと共著）。
1980 年「かくれ切支丹」出版（遠藤周作と共著）。
1980 年から中尾ハジメとスリーマイル島原発事故調査のため現地滞在。
1983 年コロンビア大学公衆衛生学部・環境科学の修士号取得。
1980 年代初頭から現在まで、原発問題に取り組み、今日に至る。原発の安全性・老朽化問題、核燃料政策、原発と温暖化問題等に関する市民活動。
2003～2011 年国際環境団体グリーンピース・ジャパン理事長。
2020 年大飯原発差し止め訴訟原告共同代表を勤める裁判に勝訴（大阪地裁）。

牛山　泉　うしやま いずみ　（足利大学学顧問、名誉教授、工学博士）

1942 年長野県生まれ、1971 年上智大学大学院理工学研究科博士課程修了、足利工業大学、講師、助教授を経て、85 年より教授。2008 年学長、2016 年より 2022 年まで理事長。ガスタービンの研究で学位を取得するが、石油危機を契機に、風力エネルギーなど再エネ研究にシフト。日本風力エネルギー学会創設、風力発電開発導入の政府委員、新エネ財団の風力委員長などを務め、世界風力会議功労賞や文部科学大臣賞などを受賞。

◎スケジュール◎

【1日目】3 月 30 日(日)

16:00～16:30　オリエンテーション
　　参加者紹介
16:30～18:00　**発題講演 1**
　　アイリーン美緒子スミスさん
18:00～19:00　夕　食
19:00～21:00　**はなしあい**
21:00～　　自由懇談

【2 日目】3 月 31 日(月)

7:30～ 8:00　静想の時
8:00～ 9:00　朝食・チェックアウト
9:00～10:30　**発題講演 2**
　　牛山　泉さん
10:30～10:50　**休憩**
10:50～12:10　**はなしあい**
12:10～13:10　昼　食
13:10～14:00　**グループ別**
　　はなしあい
14:00～14:20　**休憩**
14:20～15:30　**総合討論**
15:30　　閉　会

＊できるだけ全日程ご参加ください。やむを得ない場合は、部分参加でも可能です。
＊お申込みには、電子メールなどで受付のお知らせをお送りします。申込み後 2～3 日経っても返信が無い場合は、お問合せください。
＊前日正午以後のキャンセル、変更には、キャンセル料金が発生します。

【申込み・問合せ】

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
http://www.academy-kansai.org
電話　075-711-2117
FAX　075-701-5256
電子メール　office@academy-kansai.org

不在時は、留守電に伝言をお残しください。折り返しご連絡します。翌日以降になる場合もあります。

↑HP

運営委員長：小久保 正　所 長：神﨑 清一
担 当：都木（とき）

＊地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎します。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせください。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、タクシーは北山駅、北大路駅が拾いやすいです。

――――2024 年度　修学院フォーラム「エネルギーを考える」 参加申込書――――

FAX 以外の場合も以下の項目をお知らせください。

（フリガナ） 名　前	所　属
〒 住　所 電話・携帯（　　）　－　FAX（　　）　－	
電子メール：　　@	
◎参加形態　1. 全日程参加　2. 部分参加　（　　）から（　　）まで	
◎宿泊室　1. 相部屋でよい/同室希望者 なし・あり〔　　〕さん　2. 個室希望　3. その他ご希望：	

FAX　075-701-5256